

第 26 号…令和3年10月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3

関東地域づくり協会からのお知らせ

令和3年度 東北地方整備局「国土交通行政関係功労者」表彰を受賞しました
 関東地方防災エキスパート情報交換会について
 公益事業紹介

6

プロジェクトK⑫

技術者の知恵を集めて、 環境を守り、 地域に開かれたダム建設を実現

宮ヶ瀬ダム

10

関東の宿場町⑥

韮崎宿 山梨県

12

関東の土木遺産⑬

玉川橋 埼玉県

14

会員のひろば

趣味が病気に勝つか

15

会員情報

新会員紹介・お悔やみ
 編集委員会だより

16

ピックアップ 関東の道の駅⑩

3世代がそれぞれに 楽しみ集える場所を目指して

道の駅「グランテラス筑西」

**表紙の言葉**

やまおかこうよう

山岡康洋さん（東京都立橋高等学校2年生（受賞時））

日暮れの道路

この写真は、当協会が主催する第33回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部銀賞に選ばれた東京都立橋高等学校の山岡康洋さんの作品です。

「この写真は、夏休みに部活の先輩や友人と出かけたときに撮影したものです。新型コロナウイルスの影響でなかなか外出できない中、外での写真撮影は久しぶりでした。途中、雷雨に見舞われたりもしましたが、その後天候も回復し、目的地までの移動中に偶然撮れた一枚です。雨で路面が少し濡れており、夕日の光が路面に映っている風景がとても美しく感じました」

令和3年度 東北地方整備局 「国土交通行政関係功労者」表彰を受賞しました

東北地方整備局は、建設事業関係功労者、東日本大震災、令和元年東日本台風および令和2年7月豪雨に伴う復旧・復興関連業務を含む優良業務施行者、同大震災、台

風および豪雨に伴う復旧工事等を含む優良工事施工者、工事成績優秀地域企業および災害対策功労者を国土交通行政関係功労者として表彰しています。

当協会では、令和2年度業務として三陸国道事務所の発注により民間3社との設計共同体にて施行した「三陸沿岸道路事業監理業務（洋野工区）」について、表彰を受けました。本業務は、三陸沿岸道路（洋野工区）において、事業促進PPPとして、事業計画の検討・進捗状況管理、工事発注までに必要となる業務の効率的なマネジメントおよび関係機関との協議・調整を行ったものです。

当協会としては平成24年度から令和2年度まで継続して業務を実施し、今回で5回目の受賞となりました。



令和3年3月20日開通した三陸沿岸道路 洋野階上道路
(写真:東北地方整備局三陸国道事務所HPより)

■東北地方整備局国土交通行政関係功労者表彰

受賞業務：三陸沿岸道路事業監理業務（洋野工区）

発注者：三陸国道事務所

受注者：工営・関東・大成・福山設計共同体

関東地方防災エキスパート情報交換会について

防災エキスパート活動を効果的に行うため、毎年関東地方整備局の各事務所主催による情報交換会が実施されています。

今年は新型コロナウイルス感染状況から例年より時期を遅らせて開催の調整が進められましたが、幾つかの関係事務所において職員等の感染が確認されたことや緊急事態宣言の期間延長などにより、Webによるリモートでの実施や会議を中止し資料送付のみへ変更する事務所が多くありました。

10月初旬時点での開催状況は右表のとおりです。



荒川下流河川事務所とのWebによるリモートでの情報交換会

支部名	主催事務所	開催日	実施方法等
水戸支部	常陸河川国道	—	資料送付
	下館河川	—	資料送付
	霞ヶ浦導水	—	資料送付
	常総国道	—	資料送付
	常陸海浜公園	—	資料送付
宇都宮支部	宇都宮国道	9月27日(月)	Webリモート会議
	日光砂防	8月3日(火)	—
	渡良瀬川	9月14日(火)	Web併用
	鬼怒川ダム統合	9月8日(水)	Webリモート会議
高崎支部	高崎河川国道	—	資料送付
	利根川水系砂防	9月29日(水)	Webリモート会議
	利根川ダム/品木ダム	—	資料送付
大宮支部	利根川上流	9月28日(火)	Webリモート会議
	荒川上流	9月13日(月)	Webリモート会議
	大宮国道	—	資料送付
	北首都国道	10月26日(火)	開催予定
	荒川下流	9月3日(金)	Webリモート会議
千葉支部	霞ヶ浦河川	7月29日(木)	—
	利根川下流	11月	開催予定
	江戸川河川	11月上旬	開催予定
	首都国道	9月29日(水)	Webリモート会議
東京支部	千葉国道	9月6日(月)	Webリモート会議
	関東技術	—	資料送付
	東京国道	9月14日(火)	Webリモート会議
	相武国道	9月29日(水)	—
	昭和記念公園	—	資料送付
神奈川支部	京浜河川	—	資料送付
	相模川水系ダム	—	資料送付
	川崎国道	—	資料送付
	横浜国道	—	資料送付
甲府支部	甲府河川国道	10月8日(金)	Webリモート会議
	富士川砂防	8月31日(火)	Webリモート会議
長野支部	長野国道	—	資料送付

荒川環境美化活動広報・支援 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム 荒川での活動をモデル事例とし、 世の中全体のごみ問題解決につなげる

1. 荒川クリーンエイドとは

当フォーラムは1級河川「荒川」の下流域において、清掃活動（＝荒川クリーンエイド）のコーディネートを中心とした事業を行う団体です。

クリーンエイドは「clean：きれいにする」＋「aid：助ける」から成る造語で、“ごみを拾ってきれいにし、自然が回復するのを助ける”といった意味があります。荒川クリーンエイドは「荒川放水路70周年」記念事業の一環として、1994年、当時の建設省荒川下流工事事務所（現・国土交通省荒川下流河川事務所）の呼びかけで始められた河川清掃活動の名称です。

その後、国と沿川自治体のバックアップを受けつつ、26年間運営が継続されてきました。

2. 調べるごみ拾い活動の実践

(International Coastal Cleanup : ICC)

当フォーラムでは「調べるごみ拾い（ICC*に準拠）」を実践しています。これはごみの個数を種類別に集計するもので、意識的にごみを拾うことで啓発も兼ねたツールとなっています。結果を基に、これから私たちがこの



活動状況(2019年9月)

*International Coastal Cleanup：米国の環境NGO「オーシャン・コンサーバンシー（Ocean Conservancy）」の呼びかけに応じて、1990年に国内でスタートした国際的な海洋環境保護活動。国内では一般社団法人JEANがナショナル・コーディネーターとなっている。

課題とどのように歩んでいくべきかを業界団体等と日々考えています。

3. COVID-19の影響と現場活動の代替案

2020年にパンデミックとなり、今も猛威を振るうCOVID-19の影響はすさまじく、荒川クリーンエイドもほとんどが中止となり、団体運営すらままならない状況となりました。しかし、「現場体験」の提供は難しくなったものの、オンラインの研修プログラムや講話の実施、YouTubeチャンネルの開設、河川・海洋ごみ問題の学習アプリ開発、河川のマイクロプラスチックを利用した雑貨の販売等々、従来の枠にとられない新たな事業展開も始めました。

これらがどのように発展していくかは未知数ですが、次に現場体験するとき、より魅力を感じてもらえる“布石”になればと思っています。

4. 今後も、より顔の見える組織を目指して

荒川クリーンエイドは、端的に言えば「拾う人を増やして、捨てる人を減らす」活動です。

当フォーラムの取り組みを世間にどう伝達すべきか。これまで活動してきた思うのは、“組織の中の人の顔が見えるかどうか”というところがとても大きいと感じます。社会課題性を伝えることはもちろん重要ですが、運営するスタッフの人柄が分かると、より自分化しやすいのではないのでしょうか。

先行き不透明な世の中ですが、一步一步できること、やれることを着実にし、変化を恐れず新たなことにもチャレンジする組織を目指していきたいと思います。



オンライン講話



YouTubeチャンネル

河川愛護に関する広報活動 荒川図画コンクール

今年で32回目を迎える「荒川図画コンクール」。河川愛護に関する広報活動の一環として、次世代を担う小学生に荒川の絵を描くことにより河川美化、愛護の意識や関心を高めていただくとともに、その作品を通して多くの流域住民の方に河川愛護や河川への意識を啓発することを目的に実施されています。

平成17年から当協会（当時：関東建設弘済会）の公益助成事業となり、平成30年からは当協会も実行委員会へ加わり「関東地域づくり協会賞」も設けられました。

今年では総数2,308点と昨年の1.5倍の応募があり、9月24日に開かれた審査会で、特選および実行委員会11団体の各賞それぞれ各学年1点、入選各学年3点、佳作各学年5点の合計120点の入賞作品を選定しました。入賞作品は埼玉県立川の博物館等で展示される予定です。

今回「関東地域づくり協会賞」に選ばれた6作品を紹介します。



体育館いっばいに並べられた応募作品
(審査会の様子)



六堰頭首工と荒川

吉田侑叶(よしだ ありか)さん 寄居町立桜沢小学校1年生



荒川上流、荒川橋梁と川下りと家族

渡瀬冬馬(わたせ とうま)さん さいたま市立谷田小学校2年生



友達とお花つみ

石崎凜(いしざきりん)さん 鴻巣市立大芦小学校3年生



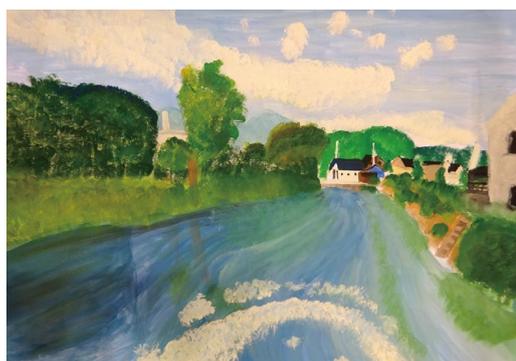
長瀬オートキャンプ場

貝塚那知(かいづか なち)さん 坂戸市立片柳小学校4年生



玉造水門の春

佐藤優馬(さとう ゆうま)さん 上尾市立平方東小学校5年生



栃本堰から見る空が映る水面

竹下明澄(たけした あずみ)さん 小川町立小川小学校6年生



技術者の知恵を集めて、 環境を守り、地域に開かれた ダム建設を実現 宮ヶ瀬ダム

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。
第42回は、宮ヶ瀬ダムが2回目の登場。今回は、ダム建設に携わった
西田博さん、徳道修二さんと現場を訪ねました。



西田 博さん

株式会社サンテックインターナショナル
技術顧問。昭和40年入省、河川部河川
情報管理官を経て、平成12年に退職。

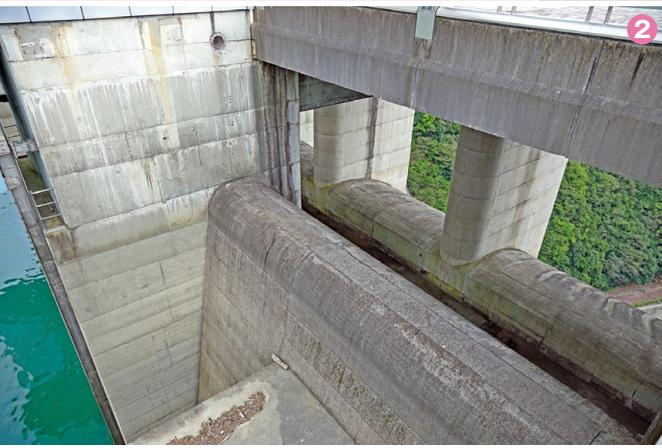
徳道修二さん

東亜建設工業株式会社土木事業本部長
付技術部長。昭和54年入省、河川部河
川情報管理官を経て、平成30年に退職。



① 管理所の屋上からダム为天端と宮ヶ瀬湖を望む。水没地にあった274戸を含む281戸、学校や神社仏閣が代替地などに移転した

② 非常用洪水吐きは、側水路を設けた珍しい形式を採用。令和元年の台風19号では越流直前まで水位が上昇したが、これまでは試験湛水の時越流したのみ



③ 平成12年12月の竣工式の様子。写真中央は扇建設大臣(当時)

④ 環境対策と効率的な建設に対し、土木学会技術賞を受賞。裏側には工事に携わった国土交通省職員と施工業者社員の名前が刻まれている

ダム建設経験者の知恵を結集した首都圏最大級のダム建設

宮ヶ瀬ダムは、総貯水量19,300万 m^3 にも及ぶ首都圏最大級の多目的ダムである。堤高156m、堤頂長約400m、堤体積約200万 m^3 の重力式コンクリートダムは山間に堂々とした姿を見せており、ダムにより新たな魅力が加わった宮ヶ瀬の地は、豊かな自然景観を求めて多くの人が訪れる場所となった。第27回(本誌第9号、平成28年1月号)では、清川村、愛川町、津久井町(現・相模原市)にまたがる広大な用地取得に関する苦勞を伺ったが、今回は技術面での話題を取り上げる。

宮ヶ瀬ダムの完成までに、西田博さんは4回、徳道修二さんは2回、宮ヶ瀬ダム工事事務所に勤務した。二人が共に工務課に所属したのは昭和57(1982)年7月から昭和60年3月の約3年間。西田さんは昭和55年4月に工事係長として赴任し、続いて工務係長として昭和60年3月まで勤務、徳道さんは昭和57年4月から昭和60年3月に工務課員としてダム建設に携わっていた。

昭和56年8月には一般損失補償基準調印がなされ、

昭和57年8月は水没者の移転が開始した時期である。その当時の事務所はどのような様子だったのか。

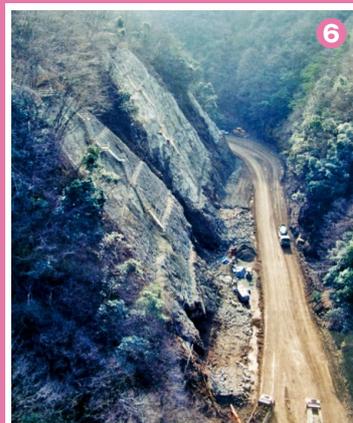
「昭和57年頃、工務課では、ダム本体だけでなく水没者の移転先や付替道路のルートなども含めて、地元と交渉しながらダムの全体計画を進めていました。工事用道路や移転代替地の一部ではすでに工事に入っていたところもありましたね」と西田さんは振り返る。

水没者といっても厚木市内に勤めている人、地元で働いている人などそれぞれに生活圏は異なる。そのため、用地課員によって水没地に残るか厚木の方に移りたいかという意向調査が進められていた。それに基づいて造成計画をするのが工務課の仕事だ。

「当時は、ダム本体については調査設計課が、付替道路や移転代替地については用地課と工務課が連携しながら計画づくりをしていました。でも、西田さんはダム本体の計画もやっていたよね」と徳道さん。西田さんは「そうだったね」と応える。

「それは工務係長としてというよりは、事務所としてやっていたこと。というのも、当時のダムの事務所は、『自分は工務課だ』『調査課だ』などと職務を区切っていた、

⑤ ダム北側の山々。環境保全のため、大規模な地山の掘削をできるだけ回避した。画面左半分の針葉樹部分は元の山のまま。画面右手の原石山は、掘削した斜面に苗木の植栽や種子吹付で緑化を果たした



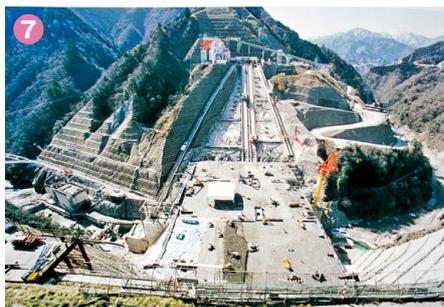
6

⑥ 工事の様子。延長約2kmの仮排水トンネルを通し、河床を重ダンプトラックが通る工事用道路として利用した



5

⑦ ダム本体コンクリート打設の様子(平成4年頃)



7



8

⑧ 工事に頻繁に行われていた見学会。「開かれたダム建設」を目指して広報に力を入れた

地元に入って工事をすることはできなかったのです。地元の人に何か尋ねられたら、何課の人間であろうと答えられなければなりませんから」(西田さん)

皆で一体となって進めていくという意識がなければ動かなかったのだという。

「上野徳さん(第27回に登場)が“技術をよく知る用地屋さん”なら、西田さんは“用地のことをよく知る技術屋さん”です」(徳道さん)

当時の宮ヶ瀬ダム工事事務所には、関東のさまざまなダムを手掛けた人たちが集まっていた。

「宮ヶ瀬ダムの前に建設された川治ダムの事務所から来た人が多かったですね。実は、私もその一人。先輩方の中にはもっと古い、菌原ダムや二瀬ダムなどに携わっていた人もいました」(徳道さん)

「特に歴代の所長たちはそれぞれがダムのオーソリティですから、どうやってダムを造るのがよいか、どうすれば一番地元で貢献できるかといったことを、事務所の発想で一から考えて造ることができたのです」(西田さん)

事務所の発想を生かし、工期短縮のためさまざまな新技術を導入

宮ヶ瀬ダム建設にあたっての基本理念は、大きく分けて3つある。

1つ目は、計画的な周辺環境対策である。豊かな宮ヶ瀬の自然をできるだけ残せるよう、ダム湖に沈む部分以

外の山をあまり切り崩さずに済むように工夫した。

「ダム工事用のダンプトラックは非常に大きく、宮ヶ瀬では最大で77t積みものを走らせていました。このような大きいダンプトラックが通るには道幅が13mも必要で、山を大きく掘削することになる。それを回避するため、通常よりもかなり長い約2kmの仮排水トンネルを造り、河床を道路として利用しました」(徳道さん)

宮ヶ瀬のように急峻な地形では、山を切り崩すと法面の対策などに費用がかかるため、仮排水トンネルを長くの方が費用が抑えられた。「このような方法で自然破壊を避けた例は、後にも先にもないでしょう」と西田さん。

2つ目は、RCD工法による設計施工の合理化だ。セメント量が少なく骨材も少ない硬練りコンクリートを使うのだが、これにより汎用性の高い重機(ブルドーザーや振動ローラー)を使うことができた。これにより、特殊な重機を使わなくて済み、コスト削減にもつながった。現在では主流になっているRCD工法だが、150m級のダム堤体に使用したのは宮ヶ瀬ダムが初めてだったそうだ。

3つ目は、新技術を適用した工期短縮とコスト縮減。取り入れた新技術は多々あり、先に挙げたRCD工法もその一つだ。他にも、ダム堤内の監査廊などに工場で作ってきたプレキャスト型枠を全面的に採用。また、ダムサイトの斜面にダンプ直載型インクライン(昇降運搬機)を2機設置し、右岸天端のバッチャープラントからコンクリート打設地点までダンプトラックで直接コンクリートを運ぶこ

⑨ 夏季に行われている観光放流（現在はコロナ禍により休止）。ダム堤体中腹の高水位洪水吐からの勢いある放流を楽しみに多くの人が訪れる
（西田さん撮影）



10

⑩ ダム湖の周囲に架かる約100の橋のうち、コンクリート橋の中で最も長いやまびこ大橋。徳道さんは橋台工事の発注を担当。思ったとおりに進まず、現場に出向いて対応した

11



⑩ 「ダム湖の水位が下がる夏場にも楽しめる水場がほしい」との要望があったため、本体の掘削土などを利用して池と緑地を造った。現在は宮ヶ瀬湖畔園地としてスポーツやイベントに利用されている

⑫ ダム堤体内部の通路はプレキャスト型枠を採用して、工期を大幅に短縮。「温度ひずみによるひび割れを防ぐため傾斜ジョイントを採用しました」と西田さん



とで打設の間隔を短縮、作業機械の搬出も効率化した。
課題が出てくるたびに、事務所の職員が集まり、解決策を求めて議論を重ねたという。3つの基本理念は、宮ヶ瀬ダム工事事務所のアイデアが生かされた結果だった。

地域に開かれたダム、 地元の人に喜ばれるダムを目指した

ダム本体工事の発注は昭和62（1987）年。そこから平成最初の数年が工事の最盛期だった。西田さんが3度目に赴任したのは昭和62年7月から平成2（1990）年3月まで、今度は工務課長として。徳道さんも平成4年4月から平成8年3月まで、工務係長として勤務した。

工務課の職員は厚木市内の事務所が仕事場だが、現場で問題が起きたり、地質や地形が設計と異なるため変更が必要になったりした場合は、宮ヶ瀬まで出向いて対策を検討することになった。「宮ヶ瀬大橋（現やまびこ大橋）の施工時にはよく呼ばれて行きましたね」と徳道さんは苦笑い。山岳道路であるため、地形と地質が調査と違うことはよくあったのだ。

「我々はダム屋ですが付帯工事では道路を造るのです。道路はちゃんとつながっていなければなりませんから、線形を保てるように用地を追加取得したり、それが難しいときは設計を変更したりして対処しました」（徳道さん）

施工方法に関するだけでなく、宮ヶ瀬ダム建設で重視されたことがもう一つある。それは「地域に開かれた

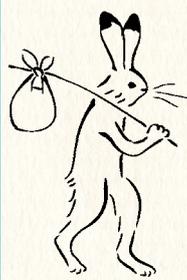
ダム、地元の人に喜ばれるダム」にすることだ。二人が共に働いた昭和50年代後半から、そのための検討がなされ、その後の工事期間で次々に実行された。例えば、ダム本体関連の式典には地域の住民を大勢招き、現地見学会も定期的で開催。造成した緑地ではクリスマスツリー装飾やコンサートなども行った。建設で使ったインクラインをダム完成後は観光利用することも、全体計画の段階で考えられていた。徳道さんは工務係長だったころ、広報業務も担当し、一般の人に分かりやすい文章の書き方やマスコミ対応の仕方も勉強したという。それも「開かれたダム」のための仕事の一つだった。

宮ヶ瀬ダムの竣工は平成12（2000）年12月。西田さんは平成9年4月から平成11年3月まで事務所長を務めた。徳道さんは、平成13年4月から平成15年3月まで、運用管理を引き継いだ相模川水系広域ダム管理事務所の広域水管理課長として勤務した。長年にわたり建設に携わった宮ヶ瀬ダムの現場をどのように思い返すだろうか。

「苦労したけれど、勉強になることがとても多かったですね。他人がやっていないことをやる面白さを味わうこともできました」（徳道さん）

「宮ヶ瀬ダム建設という同じプロジェクトに向かって、皆で頑張ろうと一致団結できていた時代でした。忙しかったけれど、働きやすかったと思いますよ」（西田さん）

存分に悩み、楽しみながら働いたという技術者の達成感がにじみ出る言葉だった。



信濃・甲斐・駿河を結ぶ 葦崎宿

江戸時代、東海道などの
街道に設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を、
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。
第6回は甲州街道39番目の宿、葦崎宿です。



釜無川と七里岩。葦崎宿は
七里岩台地の南端に位置している



本町通りとして
きれいに整備された
旧甲州街道

甲州街道は五街道の一つであり、江戸日本橋と信州下諏訪宿を結んでいました。慶長5(1600)年、甲斐が徳川家康の御料所となると江戸と甲斐の関係は密接になり、甲州街道の交通量は増えていきます。そして1610年代には官道として整備されたのでした。当初は江戸と甲府(府中)を結んでいましたが、それほど遅れずに甲府以西の整備も進められました。その整備の一環として設けられたのが葦崎宿です。開設時期ははっきりしませんが、1640年代の前半までには葦崎宿は成立していたと考えられています。

葦崎地方は古くから甲斐と信濃を結ぶ要路に位置し、峡北(甲斐北部)地方の要として重要な地位を占めていました。宿が設けられた後も交通、交易の要所として人や物がさらに多く集まり、甲斐の中心地である甲府に勝るとも劣らない繁栄の時期が長く続きました。葦崎宿には本陣は1軒、旅籠は17軒ありました。

葦崎宿が繁栄したのは盛んな陸運、水運があったからです。甲州街道は葦崎宿から2つの脇往還が分かれています。一つは駿河へと向かう駿信往還。甲斐は古くから駿河など東海道筋との交通が盛んでした。駿信往還はそのときに利用された道です。駿河方面からは塩や海産物、信濃や峡北方面からは米や麦などが運ばれました。葦崎宿はその中継地

だったのです。もう一つの脇往還は、信州佐久郡岩村田までの佐久往還です。佐久往還沿いの地域は甲斐きっての穀倉地帯であり、米麦などが葦崎宿に運び込まれました。

水運は釜無川を利用して行われました。釜無川はやがて富士川と合流し、駿河湾に注ぎます。慶長17(1612)年に角倉了以の富士川開削、浚渫が完成すると富士川の水運は大きく発展します。富士川の河岸としては鮎沢、青柳、黒沢河岸があり、当初は葦崎宿からそれらの河岸まで荷を運んでいましたが、1700年代後半には、釜無川にも河岸が造られました。それが船山河岸(河原部河岸)です。これにより葦崎は駿河さらには江戸と直結し、御廻米が盛んに運び出されていたのです。

このようにして葦崎宿には米や塩、海産物、綿、雑穀、薪炭、豆粕などが集まり、それに伴い商業も発達。甲斐西部の中心地として大いに賑わったのでした。その賑わいは、明治36(1903)年に葦崎まで開通した中央本線によって終止符が打たれます。繁栄した頃の面影は旧甲州街道(本町通り)沿いにある本陣跡、一橋陣屋跡、船山河岸跡などの碑と、今もわずかに残る道路に対して斜めに鋸歯状に建てられた独特の家並みでしのぶしかありません。



往時の街道をしのばせる祖母石地区の家並み



一橋陣屋跡の碑。陣屋は租税、訴訟などの民生を司った



葦崎宿本陣跡の碑。
葦崎宿には本陣1軒、旅籠17軒があった



馬つなぎ石。物資輸送に馬は盛んに使われた



鵜沢横丁。ここから鵜沢河岸に向かった



船山河岸の碑。
船山河岸の開設で水運はさらに盛んになった



葦崎宿の家は街道に対し斜めに建てられていた



窟観音雲岸寺。七里岩の洞窟に聖観世音菩薩などの石仏が安置されている



玉川橋ものがたり “最初の玉川橋”

埼玉県西部を流れる都幾川に架かる玉川橋は、大正10(1921)年県内初の鉄筋コンクリートアーチ橋として竣工。架橋から100年たった今なお、現役の橋として人々の生活を支えています。県道として長きにわたり暮らしを結ぶ玉川橋ですが、現在の玉川橋が架けられる以前、ここには木造の“最初の玉川橋”がありました。

“最初の玉川橋”は明治12(1879)年、玉川郷(旧玉川村・現ときがわ町)に住む和田三郎平らを中心とする周辺地域の住民によって架橋されました。当時、玉川郷の中央を流れる都幾川には住民の手による簡易な板橋が設置されていましたが、大雨や出水でたびたび流失。丈夫な永久橋を架けることは住民の心からの願いでした。

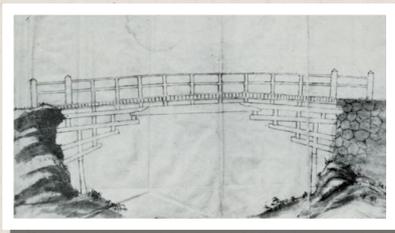
明治政府は当初交通インフラの中でも鉄道を重視し、道路整備にかかる工費は民間の負担で行うこととしていました。そして民費による道路整備を促すため、通行料金の徴収を許可したため、当時架橋された橋のほとんどは

賃銭橋。しかし、“最初の玉川橋”は総工費全てを周辺住民らの寄付で賄い、橋銭を取らない、誰もが通れる橋として造られます。カンチレバー型の丈夫な木造橋は、付近の玉川小学校に通う子供たちをはじめ多くの人々が往来する、日々の生活に欠かせない橋として大切にされます。明治15(1882)年に周辺地域で大火が起きた際には、橋を燃やすまいと大勢の人々が駆けつけ、川の水をかけ続けたといひます。

木造橋からコンクリート橋へ

架橋から20年ほどたつと、“最初の玉川橋”は部材である木材の腐食や当初の予想を上回る馬車による重量物運搬の増加により、次第に劣化していきます。何度か部分的な修復を行ったものの、ついに橋全体が腐食。架け替えが必要になりました。

玉川村は県知事に対して架け替え願いを提出。直轄工事として採用し、県と村は臨時土木予算1万9,048円で随意契約を行います。明治22(1889)年に「土功費支弁法規



“最初の玉川橋”の粗絵図
(和田三武郎「心奥に連なる
最初の玉川橋」より)

チッピングで石材風に仕上げられた
コンクリートの表面



都幾川の清流と
豊かな緑に囲まれる玉川橋



関東の土木遺産 第43回

埼玉県初の鉄筋コンクリートアーチ橋

玉川橋

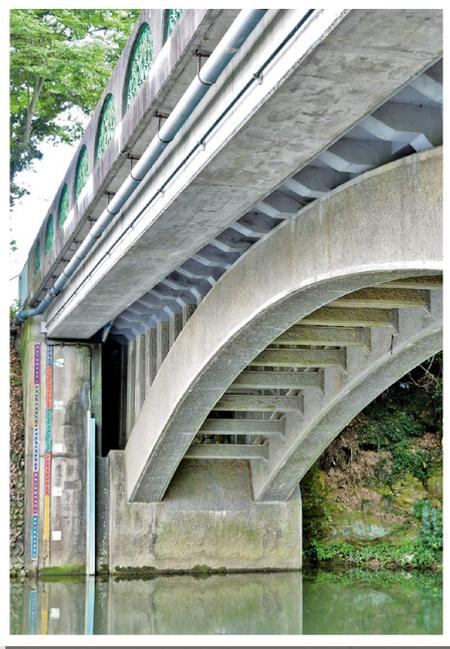
埼玉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。

それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第43回は埼玉県比企郡ときがわ町にある玉川橋です。



形式は開腹アーチリブ。
柱は特徴的な井桁状



定」が改定され、道路整備に対して地方税による支弁や補助が行われるようになったことが追い風になりました。

新しい玉川橋は大正10(1921)年1月5日に起工、同年12月8日に竣工します。橋梁の形式は当時の先端技術の粋を尽くした、県内初となる鉄筋コンクリートアーチ橋。全国的にも早い時期に造られています。竣工にともない県知事を招いての式典が行われ、村民による渡り初めで大いに賑わいました。

この先駆的な橋は、周辺地域にも大きな影響を与えます。橋の流失被害に悩む名栗村(現飯能市)の村民らは玉川橋を視察し、玉川橋竣工の2年後、ほぼ同型の鉄筋コンクリートアーチ橋を入間川に架けました。

玉川橋架橋の経緯について、「アーチ橋は橋脚がなく水害に強い一方で、両岸に負担がかかる構造です。架橋するためには基礎となる地盤の強さが欠かせません」と関東学院大学非常勤講師の関口吉男さんは話します。

「当時、鉄筋コンクリート橋の設置には多額の費用がかかりました。しかし玉川橋は地盤が強く基礎工事が必要なかった。橋の製造そのものに多くの資金を使うことができ

たため、架橋が実現したと考えられます」

100年変わらず暮らしに寄り添う

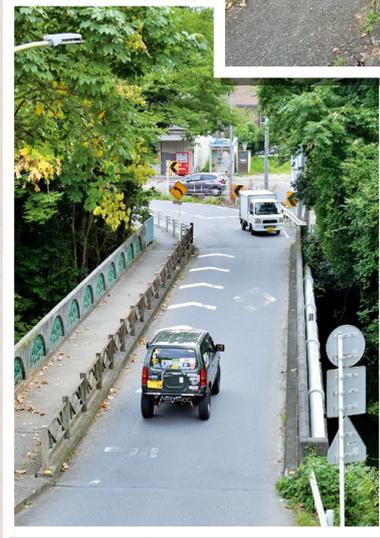
玉川橋は、周辺地域と県道を結ぶ交通の要衝として、また特産の和紙や養蚕・絹織物の輸送の要として地域の産業を支え続けます。しかし時代とともに交通量が増加すると渋滞解消のため平成15(2003)年にバイパスが開通。要としての役割を終えましたが、以後も地域の身近な橋として親しまれ続けます。

そして、平成29(2017)年「埼玉県内最初のRCアーチ橋であり、景観上も優れている」として選奨土木遺産に認定されました。高欄や歩道は改修されていますが、構造はそのまま。100年変わらずこの場所で、人々の暮らしに寄り添ってきました。「玉川橋が今もここにあるのは、橋を残したいという住民の声があったからです」と話すのは前選奨土木遺産関東支部選考委員の小林寿朗さん。

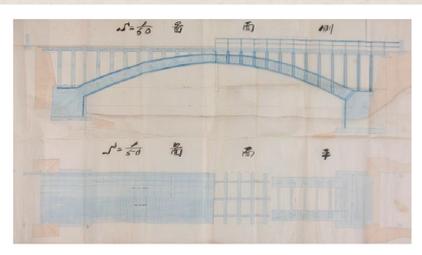
「ときがわは水辺を大切にす町。これからもこの貴重な遺産が受け継がれることを願っています」



昭和60年代に近隣住民の要望で造られた歩道。増設ではなく、玉川橋の横に架けられた“新しい橋”

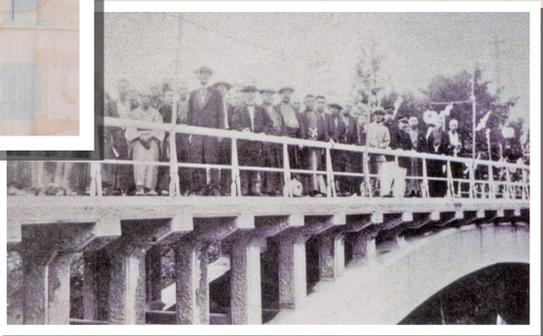


狭い幅員。車両は譲り合ってすれ違う



玉川橋の側面図と平面図
(埼玉県立文書館所蔵)

村民による渡り初め。
(郷土出版社「目で見える東松山・比企の100年」より)



高欄は昭和62年に改修。
旧玉川村の花「さつき」がモチーフ

会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです



70歳過ぎてからの気に入りのスイング

人間ドックでがん発見

70歳のとき、健康診断でバリウムが喉の壁に残ったことから精密検査し、その結果、食道がんステージ3と言われる。「手術で除去」と「抗がん剤と放射線治療併用」のどちらでも選択できるレベルであった。

手術は、喉元から食道と胃の半分を切除し、胃を縫い合わせて食道を形成する。食道がんは根治しないがんといわれ、手術後の5年生存率は60%、抗がん剤と放射線治療では40%。家内からは当然、生存率の高い手術を受けてほしいと言われたが、私は手術は避けたかった。自宅に近くて放射線治療の実績が多い、埼玉医大国際医療センターが最善と考え、詳細な検査の後9月に入院した。

副作用はたくさんあり、人によってさまざま。抗がん剤を24時間入れ続けたために体重の増加が半端ではない(3日で6.5kg)。身体がむくみ、心臓に悪いので、体重を落とすための利尿剤を入れたためトイレに約50回/日も行くことになり、これも大変だった(8kg減量)。抗がん剤を異物混入と体が認識するため白血球は急上昇するが、薬の投与と体重の下降に伴い今度は急降下する。白血球が2000 μ 以下になると警戒域で、再治療が困難になり2次入院が1週間延期となる。

放射線治療は、喉と周辺のリンパ節のがんにピンポイントで放射線を当てる。心臓

や肺等に損傷を与えないよう慎重に行う必要がある。顔全体の型を取って顔面マスクを作成して固定、体にもマーキングをして、上・斜め・下から放射線を照射するが、被爆量過多になるので30日以上は行わない。喉から胸と背中から首一面にかけて被爆箇所は火傷して黒くなり、皮が剥けて治るまでに2年以上かかった。

体重の増加や白血球は同じ傾向を繰り返し、5カ月で4回の入院。しかし、1年後にがんが再発した。

食道は3ミリ程の厚さで柔らかく普段はつぶれているが、物を食べるとき筒状になる。放射線を当てると硬くなり、食べ物を通りにくくなると同時に手術が難しくなる。内視鏡で粘膜層を剥離するときに食道に穴をあけることもあるようだ。内視鏡で1度はがんを除去できたのだが、硬くなった部位の全摘出は難しかったようで半年後に再度がんが発見された。

セカンドオピニオン

再度の内視鏡による除去手術は当院ではできないので外科の手術で除去するしかないと言われ、手術を避けたいためにセカンドオピニオンを紹介していただいた。

放射線治療後に再発して、内視鏡手術済みの食道がん患者にだけ最近保険適用となった「光線力学的療法(PDT)」があることを知った。研究の中心的立場にありアメリカの学会で発表した先生が国立がん研究センター東病院にいと聞き、これしかないと決めた。

注射した薬ががんの箇所集まって光るのでこれをレーザー照射、光が当たると副作用が出るため、入院中は部屋を暗くして頭から指の先まで黒い衣装で覆い、サングラスでの生活、退院後1カ月は外出禁止だ。PDT治療を終えてから経過観察を続けているが、今では3カ月に1度位に間隔が開き、9月で丸4年になった。

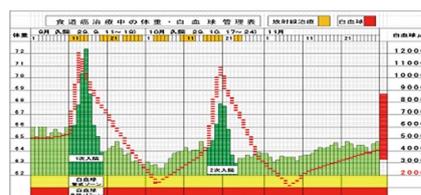
アルコールに弱く顔が赤くなって飲めな

趣味が病気に勝つか



関 登男

パシフィックコンサルタンツ技術顧問
元関東地方整備局北首都国道事務所長



入院時の体重の変化と白血球の乱高下、警戒域に入る



PDT治療時、入院中は皮膚を隠し黒装束で

いの、年と共に飲めるようになった人が、食道がんになる確率が高いと言われていいる。10年程前からバーボンを毎晩のように飲んでいたので、これが原因とされている。元々アルコールには弱いので、ここ4年間はアルコールを飲むのは止めている。

回復状況を見てくれている主治医からは、基礎体力がしっかりしているから、適度な運動は続けるように言われている。

健康にゴルフが役に立つ

週1回程度のゴルフしか運動はしないので、健康のためのゴルフと割り切り家族に協力してもらっている。ゴルフは、50歳の頃に会員権を取得して本格的に始め、10人程いた建設省時代の先輩と『彩国の会』を発足させた。今では埼玉・群馬を中心に国交省OBが集まり、30人を超える大所帯となって90回近く開催している。

スポニチゴルフ倶楽部に入会して名門コー

スをまわり、芹澤名人や女優と一緒にプレーをしたのはよい思い出だ。7年前から旅行会社が主催するクラブに入会。ゴルフの賞品でサンディエゴやカンボジアでゴルフ旅行と観光をして、この時期は国内ゴルフ旅行で楽しんでいる。

通院の合間にもゴルフは続け、72歳でグランドシニア優勝、73歳で初めてのエイジシュートを達成した。74歳の今年は6月と8月にエイジシュートをしている。とりあえず10回のエイジシュート達成に向けて、健康のために頑張っていきたいと思う。

こうやって好きなゴルフができるのも、人間ドックで早期にがんが発見できて治療に入り、セカンドオピニオンでよい先生と巡り合えたからと感謝している。

ゴルフ以外では絵を描くのも趣味。自由な時間がもっと増えたら、もっと絵を描きたいと思っている。



初エイジシュートの盾を持って「彩国の会」のメンバーと



テレワークの合間に色鉛筆で描いた武将

会 員 情 報

令和3年8月1日～
50音順・敬称略

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
古山 晃	令和3年5月	本省 課長補佐
宮崎 隆寛	令和3年6月	用地部 用地調整官
石田荘八郎	令和3年6月	千葉国道 出張所長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
西井 浩三	令和3年8月	東京国道 副所長
帖佐 勉	令和3年8月	利根川上流 出張所長

編集委員会だより

2021年・夏

今年も各地で災害が発生した。線状降水帯により短時間に記録的な降雨となり、「観測史上最大の降雨」とたびたび報じられた。いつどこで、どんな災害が発生するかわからない。九州をはじめ、近くでは静岡県熱海市の土石流で尊い命や財産が流失する災害があり、今でもテレビで見た光景が目につく。

また、新型コロナウイルスは、第5波を迎え、変異株により感染する人が増え、連日のように「過去最高の感染者」が確認され、重症者の数も増加していった。多くの医療機関では感染者の対応に逼迫し、通常業務もままならず、残念ながら命を落とす人も多くいた。ワクチン接種は、「もう、終えた」とか「まだ、これから」とかが日常の会話となった。

そして1年遅れで開催された2020東京オリンピック、パラリンピック。これまでであった競技のほか、新しい競技でも日本選手が活躍し、多くの話題を提供した。オリンピックでは柔道の兄妹、卓球の混合ダブルス、スケートボードの女子13歳、ソフトボールの13年越しの連覇など。また、パラリンピックでは、水泳、陸上をはじめ、車いすでのテニスやバスケット、バドミントン、ボッチャなど。オリンピック、パラリンピックでそれぞれ50を超える「これまでの最高の数」のメダリストが誕生した。多くの競技が無観客だったことから、テレビでの観戦、応援となった。コロナ禍ではあったが、たくさんの方の感動や元気をもらった夏だった。

(編集委員 S.S)

編集委員

● [関東地域づくり協会]

澤田晋

辰野剛志

中村一夫

野橋明彦

前田隆徳

山下真治

[会員]

田中良彰 (大成建設 (株))

望月美知秋 ((株) 日水コン)

3世代がそれぞれに 楽しみ集える 場所を目指して

ピックアップ

第20回

関東の道の駅



道の駅
グランテラス筑西



北関東最大級の敷地面積!
大人から子供まで楽しめるよ
うさまざまな施設を備える



2019年7月にオープンした道の駅「グランテラス筑西」は敷地面積約48,000㎡、駐車台数は小型から大型まで合わせて361台と北関東最大級の規模を誇ります。開設から1年10カ月で利用者は200万人を突破。「関東道の駅スタンプラリー」では利用者が選ぶ好きな道の駅第4位にも選ばれました。

県西部の玄関口！ 県内外の人々が集う場に

国道50号下館バイパス沿いにある道の駅「グランテラス筑西」は、地元の名産品が味わえるレストランや多種多様な生鮮品・加工品を扱う直売所だけでなく、滞在して楽しめるさまざまな設備を設けるハイブリッド型道の駅です。筑西市観光振興課の館野祐里さんは「目指してきたのは地域振興。市内の店のアンテナショップのような位置付けにもなっており、「県西部の玄関口」として、地元のランドマークになっています」と語ります。市内だけでなく、近隣の下妻市や結城市、栃木県などからも多くの人々が訪れています。

グランテラス筑西のキーワードは「3世代」。鈴木一志駅長は「道の駅の従来の客層である50～60代だけでなく、30～40代やその子供世代、幅広い年代のお客さまに利用してもらえるようなモノと体験を提供しています」と話します。

敷地内で特に目を引くのは、幅16mの野外ステージと直径60mの芝生広場です。コンサートやダンスなどのイベント、マーケットなど毎週のように行事が開催されています。他にも、手ぶらで楽しめるバーベキュースペースやドッグラン、

隣接するいちご園でのいちご狩りなど、楽しみ方は年代によってさまざま。全国の道の駅では初となるスターバックスコーヒーも併設し、大いに賑わっています。

先駆けとなる取り組みを積極的に行う

施設の設計段階から関わってきた鈴木駅長が特にこだわったのは直売所です。若い人々が訪れたいような、明るくおしゃれな空間になっています。「天井は高く通路は広く、外から中へとお客さまを招き入れるような導線に。雰囲気や商品、陳列と隅々まで気を配っています。商品を納めてくださる近隣農家にも『ぜひA級品を』とお願いしています」(鈴木駅長)

DX推進にも意欲的で、各種の実証実験に参加しており、道の駅独自のスマートフォンアプリも作成。アプリは約3,000人が利用しています。「現在は買い物ポイントの付与やクーポン発行を行っていますが、将来的には、アプリからの注文品を自宅に届けたり、時間予約で出来たての商品を提供したりすることも検討しています」と海老沼一夫営業・販促担当課長。

後発だからこそこのアイデアで、進化を続けます。



(左から) グランテラス筑西の鈴木一志駅長、筑西市観光振興課の館野祐里さん、グランテラス筑西営業・販促担当課長の海老沼一夫さん



陳列にもこだわった直売所。市内のみならず、茨城県内各所や隣接する栃木県のお土産・農産物なども豊富にそろ

オリジナル商品も人気。
(左) 石井食品と開発した玉ねぎハンバーグは発売から4,000個以上売り上げた
(下) 隣接するいちご園とは「いちごのもよぐると」を開発



野外ステージと芝生広場ではさまざまなイベントが開催される(2019年の様子)

